



クラス見学の様子(Social Studies 社会科)

大阪大学、IBM、NTTコミュニケーションズの方が見学のため来校されました。



クラス見学の様子(English Language Art 言語学習)



大阪大学での会議の様子(2009年7月22日)

関西国際学園よりスタッフ3名が参加

関西国際学園と大阪大学大学院人間科学研究科が教育工学分野で共同研究

1990年代後半に始まった「情報革命」により、本格的な情報社会の到来が私たちの生活を大きく変えています。教育においてもマルチメディア技術や機器の進化により、今まで理想として来た「分かりやすい授業」が実現できる環境となって来ました。しかし、ツールとして利用して来たコンピュータはユーザーつまりクライアント側を中心にしたもので各利用者によって「差」が生まれるものです。

情報社会インフラのキーワードのひとつに「クラウドコンピューティング」という言葉があります。どこでも自分のワーキング環境を作ることができ、情報を持ち歩くこともなく、ひとつの端末で様々な言語のシステムを動かしたりなど多くのメリットがあります。すでに金融分野などでは多く利用されている概念です。

今回は教育におけるクラウドコンピューティングの可能性を研究する大阪大学共同研究プロジェクト「教育とクラウドコンピューティング」(産学連携プロジェクト:企業はNTTコミュニケーションズ、日本IBMなど)への参加要請をいただき、関西国際学園が本格的に大阪大学と共同研究することになりました。

この共同研究は関西国際学園の生徒たちに学習環境にもフィードバックされるものであり、世界の中でも最先端です。研究イメージとしては、大阪大学が関西国際学園グループ6校の教育用ソフトやコンピュータを動かすためのオペレーションセンターになり、関西国際学園側のコンピュータは表示端末となり、計算処理やソフトはすべて大阪大学の実験センターのものをインターネットを経由して利用します。皆さんの家庭でもネットワークで学校と同じソフトや教材を利用できるようになる(学校と同じ環境)のも遠い将来のことではありません。

関西国際学園は教育の未来に向かってこれからも大きく貢献する所存です。すべては子どもたちのためにという合い言葉の下に今回の大阪大学との「教育とクラウドコンピューティング」プロジェクトの参加を決定しました。

